

「新しい東北」

復興・創生

顕彰



齊藤 賢治

(一般社団法人大船渡津波伝承館 理事長兼館長)

活動内容紹介

東日本大震災で津波に遭遇した自身の経験と自ら撮影した映像を使用し、自ら被災の経験を伝える語り部としての活動に取り組み、平成25年3月に「大船渡津波伝承館」を設立、館長に就任。

現在、伝承館や講演活動などを通じて、様々な地域で、自らの経験を伝えるとともに、震災の伝承の重要性について発信している。

「防災・減災コンテスト」の開催を通じて、防災・減災に取り組んでいる団体等と連携し、防災・減災の知見やノウハウ、課題の共有などに取り組んでいる。



岩手県大船渡市

釜石〇〇会議実行委員会

活動内容紹介

平成26年の「釜石百人会議」を活動の原点とし、その後市民有志や市職員が主体となって、平成27年に設立。

釜石に暮らす市民が主体となって、自ら考え、釜石をより楽しく魅力のあるまちにするためのきっかけづくりを提供している。

市民が自ら地域の課題について考え、関わることで様々なバックグラウンドを持った参加者同士のつながりが生まれ行動している。

※〇〇(まるまる)には、参加者それぞれのやりたい事や想いを込め、自ら行動し企画して欲しいという願いを込めているとのこと。



岩手県釜石市

「新しい東北」

復興・創生

顕彰



特定非営利活動法人 遠野まごころネット

活動内容紹介

東日本大震災の後、沿岸地域に近いという遠野市の地の利を活かし、被災した岩手県沿岸部の被災者の方々を支援するために、遠野市民を中心として結成された団体。

震災直後の支援を通じて形成されたネットワークを活かし、花を育てて「憩い」の場を、バジルやラベンダーなどのハーブを育てて「なりわい」の場をつくることを目指す「ソーシャルファーム」を運営。

生活の再建だけではなく、作物を育て、商品に加工し、販売する6次産業に取り組み、新たな産業の創出や、被災地の「なりわい」の再生に継続的に取り組んでいる。



岩手県遠野市

愛さんさんグループ

活動内容紹介

震災後のボランティアで被災地での雇用創出の必要性を感じ、平成25年に高齢者向けの配食サービスを開始。

また、平成29年2月からは、リハビリ型有料老人ホームや軽度の障害を有する方を介護職員にするスクール事業などを行う共生型複合施設「愛さんさんビレッジ」を運営する。

「誰もが生まれ育った環境によって人生が制限されることなく物心共に豊かな人生を拓ける地域創りに貢献する」の実現に向け、障害・難病をお持ちの方やシングルマザーの人材育成、雇用の創出に積極的に取り組んでいる。



宮城県石巻市



一般社団法人 日本カーシェアリング協会

活動内容紹介

東日本大震災を契機に設立。全国から自動車の寄付を集め、仮設住宅などで被災された方々を対象としたカーシェアリングサポートに取り組んでいる。

「支え合いの地域づくり」を主眼におき、地域のコミュニティでルールを作り、通常のカーシェアリング利用に加え、乗り合いでの買い物や旅行、防災訓練など多様な用途に柔軟に活用されるなど、交通弱者の交通手段の確保に資するだけでなく、コミュニティ形成にも繋がっている。

また、現場のニーズに柔軟に対応することで、生活困窮者支援のレンタカーや非営利組織、移住者向けのリースなど、寄付車を活用した幅広い社会貢献活動を展開している。



宮城県石巻市

観光チーム気仙沼

活動内容紹介

気仙沼の観光産業の振興に資するため、水産業を中心に発展してきた気仙沼ならではの「しごと」や「暮らし」を発信するための「しごと場・あそび場ちよいのぞき気仙沼」を立ち上げる。

この活動では、水産業や農業など観光業以外の様々な事業者が参画し、訪れた方に日頃の仕事や暮らしを面白く体験してもらえよう、工夫をこらしたプログラムとしている。

平成27年には不定期のイベントとして開始したが、ボランティアツアーや企業視察旅行の受入などを通じて、平成28年度には毎月開催、平成29年度には毎週開催となるなど、地域の関係者を巻き込んだ継続的な取り組みとなっている。



宮城県気仙沼市

「新しい東北」

復興・創生

顕彰



特定非営利活動法人 ザ・ピープル

活動内容紹介

福島県いわき市において、平成2年から古着のリサイクルなど循環型社会づくりの活動を行い、地域内で多様な人々が交流して学びや生きがいを共有しあえる場づくりを実践している。

震災後は、被災者・避難者の支援の他、地域の農業の抱えた課題を市民活動的手法で解決しようと「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」を立ち上げ、有機栽培されたコットンを使った商品の開発を通して新たな地域産業創出に挑んでいる。

また、コットン畑での農作業を通じて、多様な参加者と地域の繋がりや、避難者と市民との新たな交流も生み出している。



福島県いわき市

特定非営利活動法人 相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会

活動内容紹介

東日本大震災の後、精神科医療の提供体制の確保が困難になった相双地区において、福島県立医科大学心のケアチームがメンタルヘルス支援を行い、その活動を継続させる形で発足。

地域が必要としていることを日々の活動を通して把握し、住民の方々のメンタルヘルスの向上、精神的な不調を有する方のサポートを行う。

また、精神疾患を抱える方が地域で生活が営めるよう、「こころのケアセンター事業」や「訪問看護」を実施するなど、地域のニーズに応じた精神保健、医療、福祉に関する仕組みを構築し、様々な関係機関と連携を図りながら、取組を行っている。



NPO法人
相双に新しい精神科医療保健
福祉システムをつくる会

福島県相馬市



味の素株式会社グローバルコミュニケーション部CSRグループ
「ふれあいの赤いエプロンプロジェクト」

活動内容紹介

東日本大震災後の平成23年10月から、被災3県の
応急仮設住宅や災害公営住宅等にお住まいの
の方々を中心に、移動式調理台を活用した参加型
「健康・栄養セミナー」を継続して2700回以上実施。

セミナーでは、減塩や、野菜を多く摂ることなど、
日々の食事における栄養面の改善に着目した
アドバイスを行うなど、住民の健康維持をサポート
している。

加えて、セミナーの場が「語らいの場」となる
ことで、コミュニティづくりにも繋がっている。

平成29年4月からは新たに設立した公益財団
法人味の素ファンデーションが本プロジェクトを
承継し実施。



東京都

きっかけ食堂

活動内容紹介

東北のことを思い出すきっかけとなるよう、
関西の大学生が、毎月11日の夜に京都で
運営する東北の食材を使った食堂。

毎月、東北の様々な地域から魚介類や野菜
などを仕入れ、生産者の思いやこだわりを
来店者に伝え、食を通して人のつながりを
創出することで、東北の魅力を発信し、東北に思
いを馳せるきっかけとなるよう取り組んでいる。

また、食堂運営の他にも、震災を知らない
子どもたちに向けたトークや魚解体ショー、
被災地支援に興味のある小中学生との東北
支援企画の運営など、“関西にいてもできる
こと”を継続的に行っている。



京都府